

2021年2月4日

第59回関西財界セミナー 主催者声明

新型コロナウイルス感染症は社会・経済に大きな影響を与え続けている。関西においては、インバウンドによる街の賑わい、関連産業の活況等の明るい様相が一変した。また、コロナ禍は、これまで先送りにされてきた様々な課題への対応が、まったなしの状況であるということわれわれに突き付けている。

コロナ禍によって人類が「いのち」の大切さを改めて実感する中で、2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される大阪・関西万博の意義は更に深まってきている。世界に先駆けて、関西が未来社会を提示・実現できるこの機を逃してはならない。

コロナ禍という未曾有の難局を乗り越え、創造的復興に繋がられるか否か。まさに今、われわれの決意と行動力・発信力が問われている。今回の関西財界セミナーは、その歴史上初めてのオンライン開催となった。われわれは、この財界セミナーをエポックメイキングなものとし、コロナ禍の先の新たな未来を創造すべく、関西の底力を発揮して次のことに取り組む。

- デジタルトランスフォーメーションやグリーンリカバリーの本質を捉え、新たな時代を切り拓くべく、革新的な技術の開発、社会への実装、ビジネス創出や事業転換に果敢に挑戦する。パンデミックや気候変動問題などのグローバルな課題に対しては、国際協調の重要性を再認識しつつ、危機をチャンスに転換する発想で取り組む。
- コロナ禍で明らかになった経済・社会の既存制度・慣習に伴う制約、東京一極集中による弊害を取り払うべく、ニューノーマル社会に即した働き方やビジネスの実践に向けた企業の変革をはかるとともに、関西における広域行政の推進を契機とし、分散型社会への転換、ひいては道州制を含めた地方分権の実現を目指して取り組む。
- 一方で、コロナ禍によりその価値が再認識されたのが、他地域・異文化との交流体験、文化・スポーツなどによる感動の共有である。大阪・関西万博、ワールドマスターズゲームズを控えた関西が、その強みを活かして、集客・誘客の新たな形を提示することで、人々を惹きつけるモデル地域となることを目指す。
- 更に不確実性が増していく時代を切り拓くためには、パラダイムシフトを恐れぬ挑戦と、大胆な発想での行動変容が必要となる。多様な価値観を持ち、一人ひとりの「いのち」が輝く関西、そして日本の未来社会を創造する。

以上